国際協力事業団（JICA）

ブラジル連邦共和国
パラ州科学技術環境局（SECTAM）

ブラジル国

パラ州荒廃地回復計画調査

ファイナルレポート

主報告書

平成 13 年 12 月

株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナル
アジア航測株式会社

為替レート（2001年7月）		
US$ 1.00	=	R$ 2.58
R$ 1.00	=	US$ 0.388
US$ 1.00	=	Yen 124.63

国　際　協　力　事　業　団
総　裁　　川　上　隆　朗　　殿

伝　達　状

今般、ブラジル国における「パラ州荒廃地回復計画調査」が終了し、ここに最終報告書を提出することができることを喜びといたすところであります。

本報告書は、日本国政府関係省庁および貴事業団からの計画策定に関する助言や提言、ならびにブラジル国政府関係機関とのドラフトファイナルレポートに関する討議やコメントなどを反映させ、調査対象地域の荒廃地回復に関するマスタープランを取りまとめたものであります。

ブラジル国アマゾン地域の熱帯林は、地球全体の環境維持に大きく影響しているといわれています。一方、近年の急速な天然林の消失にともない、アマゾン地域の各地において荒廃地が拡大しています。荒廃地の拡大は、アマゾン地域の自然環境に影響を与えるだけではなく、土地利用を制約し、生産活動を制限し、地域住民の生活や経済活動にも大きく影響しています。そのため、荒廃地となって生産性が減少し、経済的な価値が低下した土地や、放棄され利用されなくなった土地を再び生産システムに組み込み、土地の生産性の向上と持続可能な土地利用を早急に図る必要があります。

本報告書で提案していますマスタープランの実施により、マラバ小地域において、地域住民の経済活動と環境とが調和した、持続可能な土地利用が実現し、荒廃地を回復させることが可能となります。さらに、本マスタープランで提案していますプログラム／プロジェクトを実施することにより、波及効果として、他地域への展開が可能となり、本マスタープランは荒廃地回復計画のモデルとして、パラ州の他地域の荒廃地回復にも大きく貢献することになります。従いまして、本報告書で提案しました計画が一日も早く実現されることを心から望むものであります。

最後に、本調査の実施に際し、積極的なご支援とご協力を賜った貴事業団、外務省および農林水産省、ブラジル国連邦政府、パラ州政府科学技術環境局および関係機関の担当諸官に対してここに深甚な謝意を表する次第であります。

平 成 13 年 12 月

パ ラ 州 荒 廃 地 回 復 計 画 調 査
調　査　団　長　　野　崎　　裕

序　　文

日本国政府は、ブラジル国政府の要請に基づき、同国のパラ州荒廃地回復計画にかかる開発調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施いたしました。

当事業団は、平成 12 年４月から平成 13 年 10 月までの間４回にわたり、株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナルの野﨑　裕氏を団長とする調査団を現地に派遣いたしました。

調査団は、ブラジル国政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

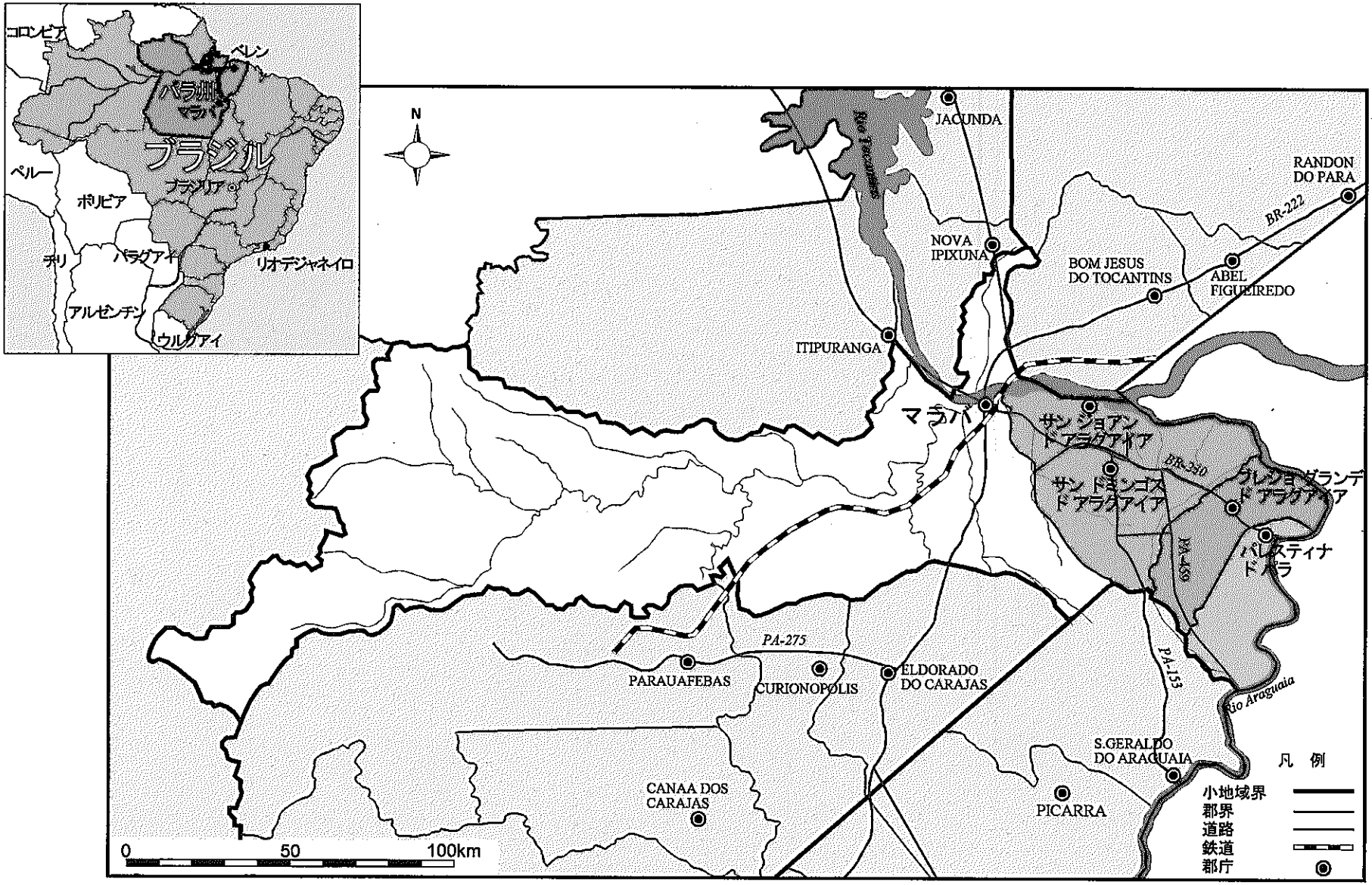
この報告書が、本計画推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、本件調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 13 年 12 月

国　際　協　力　事　業　団

総　裁　　川　上　隆　朗

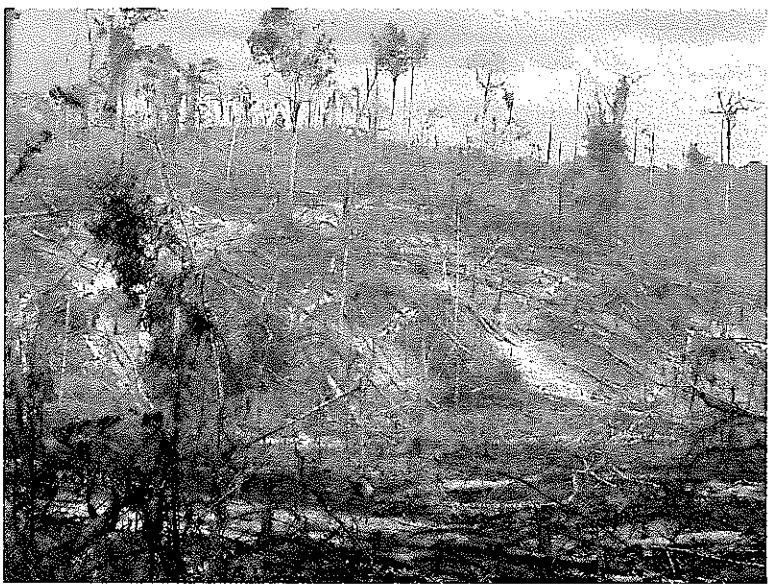

コロンビア
ベレン
パラ州
マラバ
ブラジル
ペルー
ブラジリア
ボリビア
チリ
パラグアイ
リオデジャネイロ
アルゼンチン
ウルグアイ
N
JACUNDA
Rio Tocantins
RANDON
DO PARA
BR-222
NOVA
IPIXUNA
BOM JESUS
DO TOCANTINS
ABEL
FIGUEIREDO
ITIPURANGA
マラバ
サン ジョアン
ド アラグアイア
BR-230
サン ドミンゴス
ド アラグアイア
パレスティナ
ド パラ
PA-459
PA-275
PA-153
PARAUAFEBAS
CURIONOPOLIS
ELDORADO
DO CARAJAS
Rio Araguaia
S.GERALDO
DO ARAGUAIA
CANAA DOS
CARAJAS
PICARRA
凡 例
小地域界
郡界
道路
鉄道
都庁
0
50
100km

調査対象地域位置図

ブラジル国パラ州荒廃地回復計画調査　1

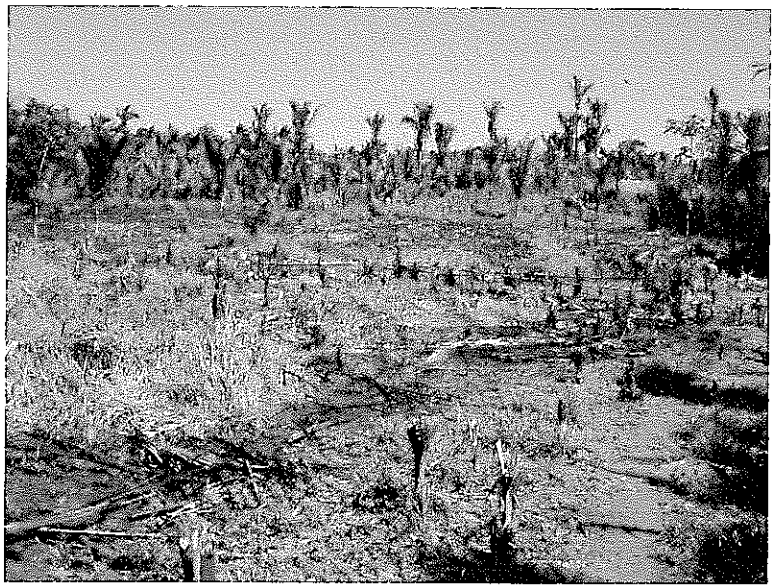
1. 森林伐採は、調査対象地域で、現在も行われている。

2. 小規模農家は、火入れによる焼畑移動耕作を営んでいる。



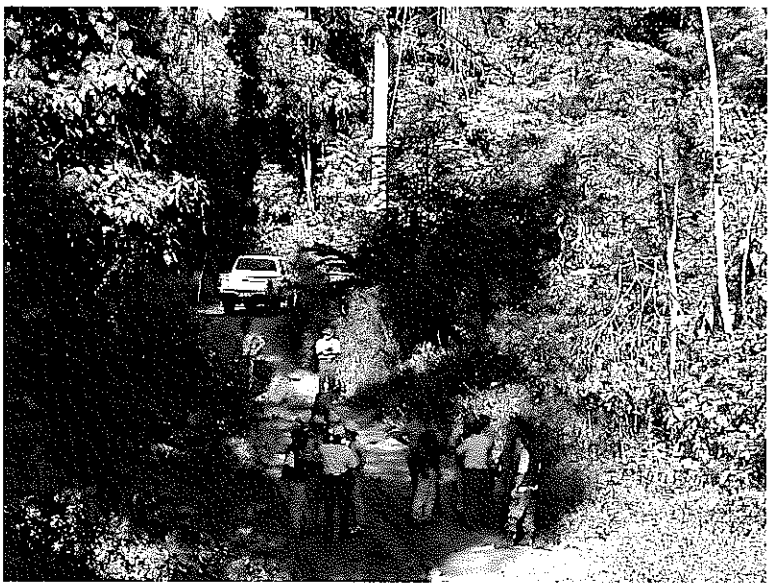
3. 乾期には、伐採後の森林に火が入れられ、牧場や畑地が造成される。

ブラジル国パラ州荒廃地回復計画調査　2



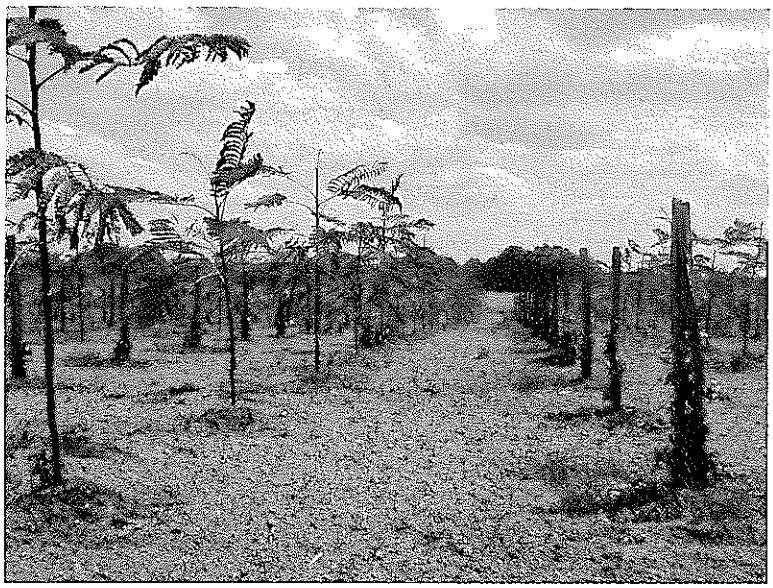
4. 調査対象地域の東部の荒廃地では、ババスの生長が著しく、対策に苦慮している。

5. 入植地計画は、荒廃地発生の一因ともなっている。



6. 現地調査は、残存する天然林に関しても行われた。

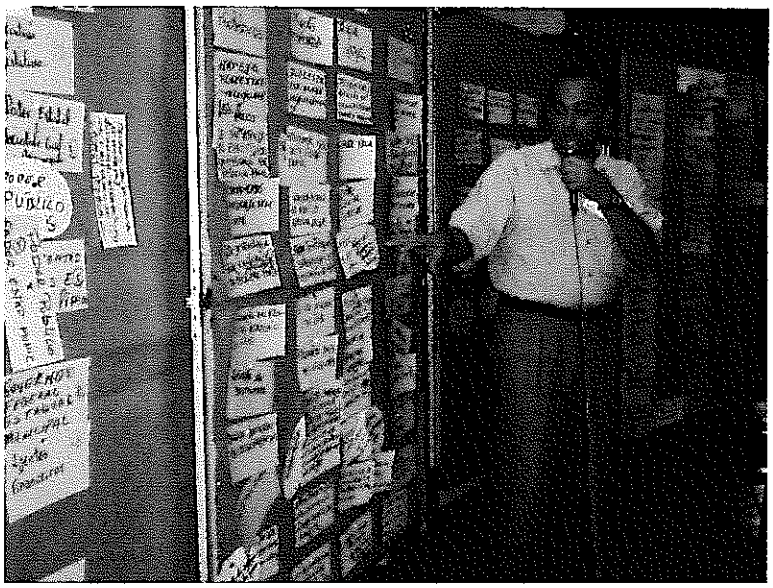
7. 農家調査は、社会経済的な観点から行われた。



8. 先進企業では、コショウとパリカの混植によるアグロフォレストリーが試みらいている。

9. 一部農家では、収益性の高いチークの植林が試みらいている。

10. ミニッツの署名は、パラ州科学技術環境局長と取り交わされた。



11. マラバでの技術移転セミナーでは、ワークショップが行われた。

12. 技術移転セミナーは全部で4回実施され、ベレンでも盛大に行われた。